

# 教育コラボレーション演習における附属天王寺小学校との連携

## 0. はじめに

教育コラボレーション演習とは、平成29年度以降入学の教育協働学科の学生(350名)が3回生時に必修として行うもので、学校や公的機関、博物館や資料館、CSR(社会貢献)に取り組む企業やNPO法人において、30時間以上の演習(インターンシップ)を行い、学校と協働しながら子どもたちの健やかな成長をサポートするスキルを身につけようという趣旨のものである。平成30年度中の試行を経て、平成31年2月から正式な授業として始まった。附属天王寺小学校では2月12日から3月1日の間に計9名の学生(当時2回生)が演習を行った。本ポスターでは、その様子を発表する。

## 1. 活動内容

附属天王寺小学校では2月15日と2月16日の2日間、研究会が開催された。そのため、学生たちの演習は、その研究会の準備や後片付けの手伝いなどを中心に、授業参観や児童との触れ合い、学年ごとの手伝いなどがバランスよく行われた。1日ごとに担当する学年を変え、すべての学生が、低・中・高、それぞれの学年に1度は入れるように配慮がなされた。また、養護教諭志望の学生には保健室の手伝いができるように時間が設定された。

学生たちの演習時間の例は以下の通りである。

1日の流れ(1日目の例)	1日の流れ(5日目の例)
10:30 集合	11:30 集合
10:40 ガイダンス	11:40 各教室の補助
11:00~11:45(3時間目) 授業参観(1年生)	12:00~12:15 体育館椅子整理
11:55~12:40(4時間目) 事務作業(研究会準備)	12:15~13:00 昼食
12:40~13:50 給食・昼休み・掃除(1年各学級)	13:00~13:45 配布物作成
14:00~16:30 1年学年手伝い・研究会準備	13:45~15:00 分科会補助
	15:00~17:00 講演会聴講
	17:00~17:30 研究会後片付け

研究会の準備とは具体的に、配布資料セットの作成や体育館の椅子の配置、テント設営や当日の受付などの仕事があった。例年はそれらの仕事を教員全員が放課後や空き時間に手分けして行うことになっているが、今年はコラボレーション演習を活かし、授業時間中に学生たちが取り組むことで、教員の放課後の仕事を軽減することができていた。



また、各学年の手伝いなどには、算数の時間で使う立方体のモデル作成や、国語の教科書本文をパソコンに入力する作業などをはじめとする教材作りや、6年生が行くスキー合宿のしおりの作成、研究会のために教室の掃除や整理など、多種多様なものがあった。

これらの仕事は、研究会の準備とは別に、担当の教員が1人で取り組むため、非常に時間がかかる。そこに学生が入ることによって、大幅な時間の短縮を行うことができていた。



## 2. 演習を行った学生の意見

### 学生Aの感想

事務作業は思っていたより大変で、しおり1つ作るにしてもこんなに時間がかかるんだ、こんなに人がいてもなかなか終わらなくて、あれを担当の先生だけでやってたと思うと、すごいなと思いました。

子どもたちと関わったほうは、2年生は可愛い、4年生はだんだん自立していつ大人になっているなののがわかったり、6年生はもうみんな自分を持っている感じがして、それぞれのよさとかいろいろなことがわかってよかったです。

### 学生Bの感想

今回の演習を通して教師の授業以外の仕事どれくらい大変で、どれくらい時間に制約されているかというのを、実際にやってみて知ることができました。

僕は学制的に小学校の免許をとることができませんが、小学校の学校現場がどう感じるのか知ることができたのは良かったなと思います。

### 学生Cの感想

児童と関わったり、研究発表会や討議会などを見ることができて、貴重な経験をさせてもらいました。

研究発表会は先生たちみんな忙しそうにしている、できることもあったんですけど少なくて、できることもしんどかったし、できないっていうこともしんどかったです。でも研究会では、授業の作り方など、裏側を見ることができてとても勉強になりました。

## 3. 附属教員からの意見

### 教員Aの感想

本来僕らが子どもたちを帰した後にやるべき仕事の日中に終わっているというのはすごく助かりました。ただ、全部は任すことができないというこっこの責任感もあるのでそこが難しかったです。責任のない範囲で仕事をやらせてもらえるのは、僕らの業務改善の一部になりうるのかなと思います。

子どもたちも、実習生が来てくれることは喜ぶますし、それが色々な大人と関わるチャンスにもなるので。

### 教員Bの感想

学生に事務作業を頼んでおいて、自分は教室に戻るということができて、子どもたちを見る時間が増えるのはすごくありがたかったです。学生さんには前向きに色々してもらったので、事務的に助かりました。

ただ、うまく計画的に実施できなかったところがあるので、事前に計画できればもっといいものになったかなと。慣れてきたところに学生さんが帰っちゃって、次の学生が来て、また1から教えてということがあったので、そこは継続的にできればよかったなと思います。

## 4. 成果と課題

学生たちの感想の多くは、事務作業の多さを実感したものと同時に、子どもたちとの関わったことへの喜びというものが多かった。コラボレーション演習とはいえ、教育実習と同じような、一人の先生として子どもと関わることが、学生のニーズだと思われる。学校側としては、事務作業をメインにしてもらいたい部分があるので、学生と学校とのニーズの差が少し浮き彫りになった。

普段の学校であればなかなか仕事を割り振ることが難しいが、研究発表会前後というこの時期は、様々な仕事があるため、教員の仕事を減らすことに繋がるが見えてきた。しかし、研究発表会など、多忙な時期でなければ、任せられる仕事が少ない、普段の学校での教師の仕事量を減らすことは難しい。そのため、このコラボレーション演習を長期的な期間を設けて実施することは難しく、多忙な時期という短期的な時間で実施することが望ましいことがわかった。